

輸入植物検疫で中国産ダイズ粕から発見されたアジア初記録の ゴミムシダマシ科甲虫, *Cynaesus angustus* (LeConte)

安藤清志¹⁾・海老名崇生²⁾

¹⁾ 〒790-8566 松山市樽味3丁目5-7 愛媛大学農学部環境昆虫学教室

²⁾ 〒062-0045 札幌市豊平区羊ヶ丘1 横浜植物防疫所札幌支所

Asian new record of grain-storage tenebrionid beetle, *Cynaesus angustus* (LeConte), intercepted at the Japanese import plant quarantine from imported soybean waste from China

Kiyoshi ANDO and Takao EBINA

北海道苫小牧港の輸入植物検疫で、中国の大連からばら積み貨物船で輸入されたダイズ粕から未知の小甲虫が発見され、安藤がこれを *Cynaesus angustus* (LeConte, 1851) と同定した。本種はこれまで日本国内および中国を含めたアジア地域において発見の報告がなく、重要性が高いと考えられたことから、少し古い記録であるが下記の通り報告する。

Cynaesus angustus (LeConte, 1851)

LeConte, 1851, 149.

Collecting data: 1♂, 1♀, Port of Tomakomai, Hokkaido, Japan, 29-X-2009, Hidefumi Monya leg. (Under the import plant quarantine from imported soybean waste from Dalian, China)

本種は米国カリフォルニア州を原産地とし、1851年にLeConteによって当初 *Platydema* 属で新種記載された。1862年には著者自身の手によって、本種を模式種として *Cynaesus* 属が創設された。現在、基産地を含む北米、中米、およびヨーロッパのドイツ、スウェーデンから記録があるが、中国からの記録はない。本種は、北米での位置づけでは貯穀害虫の範疇に含まれているものの、大量発生や大きな被害の実例はなく、どちらかといえば繁殖力が弱いようで、マイナーな貯穀害虫として取り扱われている。また、スウェーデンからの報告 (Andersson & Ferrer, 1989) では屋外でも採集されている。ここ

に簡単にではあるが本種の雄個体外部形態と雄交尾器を紹介しておく。

外部形態：体長：5.5–5.8 mm. 体側平行。背面はほぼ平坦。茶褐色。外見は一見してコクヌストモドキ族 *Triboliini* のコクヌストモドキ *Tribolium* の1種に極めて類似するが、本種はキノコゴミムシダマシ族 *Diaperini* に所属し、前種とは頭部の形態や、上翅間室が竜骨状とならないなどの点で明らかに異なる。

頭部：台形、後方に弱く隆起する。頭盾は幅広く、弱く隆まり粗い微小点刻を密布する。前縁は丸まるが中央で浅くえぐれる。頭盾縫合線は弱く圧される。前頬は発達して、強く複眼に湾入する。側縁はやや丸みを帯びて強く前方に狭まり、微小点刻を疎布。複眼は粗く、前頬と後頬間の最も狭い部分でも単眼5個以上の幅を具える。前頭は幅広く、複眼幅の2.4倍。前方に強く狭まり、弱く傾斜する、



図1. *Cynaesus angustus* (LeConte, 1851), 背面；図2. 同雄交尾器。

頭盾と同様の粗い点刻を密布する。触角は前胸背後角近くに達し、第5節より端方に徐々に広がるが、明瞭な球桿を形成することはない。

胸部：横位の四角形，中央で最も幅広い。弱く隆起し，基部の前には1対の圧痕を持つ。上面には頭部のものより大きな，やや楕円形の粗い点刻を密に具え，点刻間の表面には微細彫刻を密に施す。前縁は湾入し，その中央1/3では縁どりを欠く。側縁は適度に弓状となり，細いが明らかな縁どりを具える。基部は弱い直線を描き，細い縁どりを持つ。前角は鋭角でやや前方に突出し，後角は鈍角であるが明瞭に角張る。小盾板は大きく，平圧され，不明瞭な点刻を疎布。

上翅：長四角形，側縁は平行。やや大きな，密な点刻列からなる条溝を具え，間室は弱く隆起するが，翅端部1/4ほどではやや強く隆起する，小点刻を密に具え，上翅表面には密な微細彫刻がなされている。側縁は発達し，浅い不明瞭な溝を生じる。

腹節：腹板は全体に密な有毛点刻で覆われ，第1，第2節に渡る中央部が楕円形に強く圧される。第5

節は基部に沿って強く凹み，外縁部には細い縁取りを持つ。

脚：脚は単純で，有毛の点刻をやや密に生じる。

雄交尾器：本種は交尾器側片に強い特徴を持つ。本種の側片は上面から見て，中央部側縁がえぐれるように強く狭窄し，先端はへら状に広がる。同属の他種にはこのような特徴を具えるものは知られていない。

引用文献

- Andersson, B., & J. Ferrer, 1989. *Cynaesus angustatus* [sic] funnen I Sverige. Entomologisk Tidskrift, 110 (3): 116–117.
- LeConte, J. L., 1851. Description of new species of Coleoptera from California. Annals of the Lyceum of Natural History, New York, 5: 125–216.
- LeConte, J. L., 1862. Classification of the Coleoptera of North America. Part 1. Prepared for the Smithsonian Institution. Smithsonian Miscellaneous Collections, 3: 209–286.

(2011年11月21日受領，2012年2月9日受理)

【短報】オオマルケシゲンゴロウを島根県で採集

オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* Sharp, 1882 は本州西部から南アジアにかけて広く分布する(森・北山, 2002) が，本州の日本海側では記録がない。筆者は島根県出雲市(旧平田市内)で本種を採集したので報告する。

1ex., 島根県出雲市園町沖ノ島, 15. VIII. 2011, 灯火，筆者採集。標本はホシザキ野生生物研究所に保管されている。

ブラックライトを2011年8月14日の夕方から一晩点灯し，その下に大型の漏斗とバケツを設置

し，翌朝に回収した。周囲には水田と湿地を伴うビオトープ池がある。島根県東部では，止水性の水生甲虫の分布調査が集中的に行われているが，これまで本種の記録はなく(例えば，林, 2011)，以前から生息している可能性は低いと考えている。現時点では，オオマルケシゲンゴロウが島根県東部に定着しているのかどうか判断できないため，本種の分布状況について引き続き調査したい。

最後に，中国地方での記録についてご教示いただいた山地 治・秋山美文・川野敬介の各氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 林 成多, 2011. 島根県の水生甲虫. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (1): 1–117.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版.

(林 成多 ホシザキグリーン財団)



図1. 灯火に飛来したオオマルケシゲンゴロウ(写真中央)。